

氏名	亀 山 昭 江
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 181 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和41年 9 月30日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者 (学位規則第5条第2項該当)
学 位 論 文 題 目	融合に関する研究 第1報 健康人の融合域 第2報 健康人の Fixation Disparity 第3報 斜視弱視患者の融合
論 文 審 査 委 員	教授 奥 田 観 士 教授 西 田 勇 教授 福・原 武

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

両眼視機能の重要な因子の一つである融合の問題をとりあげ、斜視弱視患者が治療により正常な融合機能を獲得するまでの動的推移が弱視の療育成績に対して如何なる役割を持っているかを研究した。第1報では健康人の融合能力を測定し統計学的検討を行ない、斜視弱視患者では比較的個人差の少ない傍中心窩融合能力が重要ではないかと考えた。第2報では融合域を motor fusionと、sensory fusion とに区別して健康人において測定し、Fixation Disparity が両眼視機能構成要素に大きな量を占めることを観察した。第3報では弱視患者の融合能力と療育成績との関係について観察を行い、融合能力が治療成績に対して有意義であることを証明した。

第1報：昭和39年3月日本眼科紀要第15巻第2号に掲載

第2報：昭和39年3月日本眼科紀要第15巻第2号に掲載

第3報：昭和39年4月日本眼科紀要第15巻第3号に掲載

論文審査の結果の要旨

亀山昭江提出の「融合に関する研究」に関する学位論文につき審査した結果の要旨は次の通りである。

両眼視機能の重要な因子の一つである融合の問題をとり上げ、斜視患者が治療により正常な融合機能を獲得するまでの動的推移が弱視の療育成績に対し、如何なる役割を持っているかを研究した。第一に健康人の融合能力を測定し、統計学的検討を行ない、斜視弱視の治療の際は比較的個人差の少ない傍中心窩融合の検査が重要な意味を有するものと推定された。第2報では両眼視機能に Fixation Disparity が重要な要素となっていることを示した。第3報では弱視患者の融合能力と治療成績との関係を観察し、融合能力の出現と、融合域の拡大は斜視弱視療育成績と密接な関係を有することを認めた。

以上の如く本論文は新しい知見に富み、学術上有益であり、著者は医学博士の学位を授与せられるべき学力を有すると認める。